



連載 レッスンのお悩み、一緒に考えます！

聞いて！まるみえ先生

ほこあほこピアノ教室主宰 中西美江

今回のお悩みは…

『合格』の目安とは？

お悩み内容

曲の合格の目安を教えてください。日々のレッスンの中で1人1人違いますが(間違えないで弾く、手や腕の使い方、強弱や記号の表現力など)合格点はどれくらいなのでしょう？(雪だるまさん)

ピアノのレッスンは答えが一つではないため、合格の基準について悩まれることもあると思います。

まずは、私の教室の合格目安をご紹介します。

★低年齢の生徒さんのレッスン

レッスン開始から3か月くらいはほぼ1回で合格とします。同時に、生徒さんの性格や練習スタイル、お家での取り組み方、指先の柔軟さ・手指の長短・姿勢(体幹の強さ)などをチェックします。

★4か月目以降のレッスン

4か月目に入ると「とっても上手だから、○○ちゃんのステージが上がりました！おめでとう!! 今日からは“レベル2”なので『手の形をきれいにしよう』」と声かけをします。そして、それを意識して弾けるようになった段階で次の課題に移ります。その間は『手の形をきれいに』以外の課題は不問とします。

★合格の判断基準

私の教室では、合格を判断するための3つの基本ポイントを設定しています。

①楽譜が正確に読めているか

リズムや音の間違いがなく、正確に弾こうとしているかを確認します。特に初心者にとっては重要なポイントです。

②手や腕の使い方、姿勢

正しいフォームで演奏しようとしているかをチェックします。

③音楽的な表現

強弱やフレーズを意識して、「こう弾きたい」という想いを演奏に表せているかをチェックします。

一方、合格ポイントを個別化しすぎるとレッスンに「ブレ」が生じる可能性があります。したがって、テキストや年齢別の到達点を設定した【合格ライン】をあらかじめ作っておくことも大事です。

そして、もうひとつ大事なことは、合格の基準を生徒さんにきちんと伝えることです。音の間違い・フレーズの区切り・強弱・左右の音量・手の形・速さの記号・表現の記号の理解など、演奏する上で習得すべき要素とその合格基準をわかりやすく提示することで、先生と一緒に「合格」のレベルを上げていく方向に向かいやすくなります。

★合格エピソード

7歳のゆうた(仮名)くん

ゆうたくんはCポジションの簡単な曲に取り組んでいました。ある日のレッスンではリズム・音ともに正確でしたが、もう少しリラックスして演奏してほしいと思い、曲の中のいくつかのポイントで「こう弾きたい」というイメージを書いてもらい、その通りに弾いてみよう！と促しました。

結果、パーフェクトな演奏ではありませんでしたが、「イメージを持って弾く」という新たなステージになったのだと伝え、合格としました。

小学6年生のあかり(仮名)ちゃん

あかりちゃんは発表会でクラシックの名曲を弾きたいとリクエストしてくれました。強弱記号やフレーズを考えながら演奏する難しさがああり、最初は間違えずに弾くので精一杯でした。

特に難しい最後の部分について、私は「この曲の最後は物語の最後みたいに弾いてみよう。どんな気持ちで終わりたい？」と質問しました。すると彼女は少し考えた後、「静かだけど、きれいな感じで終わりたい」と答えました。その後、二人でいろんな終わり方を模索していたところ、お互いに「この終わり方だ！」と確信できる瞬間が現れたので、ここをゴールとして合格としました。

私は合格を「次のステップに進むための準備が整った状態」と考えています。生徒さんには「できた！」という確信を持って合格の瞬間を迎え、次のステップに進んでいってほしいと思っています。

たとえ小さな成功体験でも、それを積み重ねることで大きな自信につながります。生徒さん一人ひとりが自分のペースで成長しながら音楽の楽しさを感じていけるよう、応援していきたいと思っています。